

16 顎口腔機能学実習における ICT教材を活用した実習理解度向上への取り組み

木下美香, 飛田 滋, 植木一範

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : ICT教材, デモンストレーション, 顎口腔機能学実習

はじめに

現在の歯科技工実習における指導方法は、教員が作業工程毎に口頭説明と、デモンストレーションを行っている。その後、繰り返しの個別指導を行っている。この方法の場合、学生が指導内容を実践する際に、作業内容の良否や進捗状況が異なってくる。

そこで、歯科技工士学科では、自己学習によって学生個々の理解度向上と学生全体のレベルアップを目的に、予習や復習として繰り返し閲覧できるICT教材の整備を進めている。

今回、実習課題が短期間で終了する顎口腔機能学実習において、実習内容を事前に撮影、編集したICT教材を学生に提供した。そのICT教材配信の有効性について調査したので報告する。

対象および方法

対象：歯科技工士学科1年36名 顎口腔機能学実習

期間：平成28年6月15日～9月14日

2～4限7回 3～4限1回 全23コマ

方法：デモ動画3種類のICT教材を2回に分けて配信

1回目／フェイスボウレコードとその前準備

2回目／大白歯部咬合面蠟型製作

：アンケート調査／無記名で1回目、2回目と実習終了後に3回行った。

結果および考察

1) 1回目ICT教材配信のアンケート結果について

「事前にICT教材を見たか」の質問に対して、“はい”24名(69%) “いいえ”11名(31%)で、見えない学生は、WEBサイトに入れなかった、動画再生ができなかったなどと回答している。個々のICT環境の違いにより、視聴できない学生が多かったと考えられる。「ICT教材が実習に活かされたか、

見やすかったか」という質問に対して、“はい”27名(90%)で、ICT教材が実習に活かすことができたと推察できた。また、“いいえ”は3名(10%)で、分かりづらい、動画が重く後半になると高頻度で停止したなどの回答だった。

2) 2回目ICT教材配信のアンケート結果について

「ICT教材を見たか」という質問に対して、“はい”26名(93%) “いいえ”2名(7%)で、見えない学生は、見なくても実習を進められたと回答していた。1回目に視聴できないと回答した学生が多かったことから、2回目は実習室で常にICT教材を見られる環境を整えた。それにより、ICT教材の利用を促進することができた。また、「ICT教材が実習に活かされたか」という質問に対しては、“役に立った”15名(54%)、“どちらかといえば役に立った”9名(32%)、“どちらともいえない”4名(14%)であった。“ICT教材が役に立った”、“どちらかといえば役に立った”と回答した学生は24名(86%)と多く“役に立たなかった”と回答した学生はいなかった。

3) 実習終了後のアンケート結果について

「実習を終えてデモ動画は有効だったか」という質問に対して、“非常にそう思う”11名(39%)、“そう思う”10名(36%)、“どちらかといえば思う”5名(18%)、“そう思わない”2名(7%)で、ICT教材配信について、高い評価を得ることができた。

まとめ

顎口腔機能学実習のICT教材配信について、学生から高い評価を得ることができたことから、ICT教材配信が実習の理解度向上に、有効であると示唆された。

今後は、他科目においてもICT教材の数と内容の充実を行い、教育の向上に役立てたいと考える。